昭和33年1月27日　第三種郵便物認可

〈企画特集〉
Fuji Sankei Business i.

2010(平成22)年
10|14[木]

第8回 勇気ある経営大賞

14日顕彰式典

イノベーションの手本に

東京商工会議所は14日、東京都新宿区のハイアットリージェンシー東京で、第8回「勇気ある経営大賞」の顕彰式典を開き、革新的な技術を開発するなど、創造性にあふれる中小企業やベンチャー企業を顕彰する。今回は189社が応募し、大賞に2社が選ばれたほか、優秀賞5社、特別賞3社がそれぞれ選ばれた。顕彰の意義や取り組みについて、岡村正会頭に聞いた。

東京商工会議所会頭　岡村　正氏

おかむら・ただし　東京大学法学部卒。62年東芝入社。社長、会長を経て現在相談役。07年、日本・東京商工会議所会頭。72歳。東京都出身。

社会貢献とビジネスの両立

――「勇気ある経営大賞」は今年で8回目を迎えました。会頭は、本顕彰制度についてどのような役割を期待されているのでしょうか

東京商工会議所の会頭就任後、節目の3年がたちました。就任以来、勇気を持ってイノベーションを絶え間なく引き起こしていかないと、今後の企業経営の活路は見いだせない、ということをさまざまな場で繰り返し申し上げてまいりました。「勇気ある経営大賞」は、まさに私の申し上げてきたイノベーションに勇気を持って取り組んでこられた中小企業を顕彰する制度であり、今年の受賞企業の中にもイノベーションのお手本が数多く見られ、嬉しい限りです。

一昨年のリーマン・ショックから2年がたちますが、日本経済はリーマン前の水準に回復しきれておりません。デフレの継続と円高など、依然中小企業には大変厳しい経営環境が続いておりますが、今年は過去2番目となる189社からご応募をいただきました。応募社数という量もさることながら、質的にもレベルの高い企業が多く、昨年と同様、大変難しい長時間にわたる選考になったと選考関係者から聞いております。今年は、大賞2社、優秀賞5社、特別賞3社を選出いたしました。

――大賞を受賞された2社についてお聞かせ下さい

アルケアは、皮膚保護機能を持つ国産初の人工肛門装具を開発しました。これまでは、装具の脱着を繰り返すうちに皮膚に損傷が起こり、大腸がん患者はその痛みに長年苦しんできたのですが、同社の人工肛門装具は、このような方々に生きる希望を与える大変素晴らしい製品です。

日本理化学工業は、チョークのトップメーカーですが、大量廃棄されていたホタテ貝の微粉末を活用したり、ガラス面に書くことができる固形マーカーを開発するなど、成熟市場においても開発努力を続ける姿勢とともに、知的障がい者を多数雇用して、彼らに働く喜びを提供していることが高く評価されました。

両社に共通して言えることは、社会的弱者に貢献する、極めて社会性の強い特色を有しながら、ビジネスときちんと両立させていることです。

――優秀賞には、5社が選ばれました

オプナスは、銀行の金庫向けダイヤル錠を作っていた会社ですが、自販機向けシリンダー、住宅ドア用シリンダーと、市場の動向に合わせて主力商品を変えてきました。

グルメンは、もともと食品の物流業者でしたが、独自のＩＴシステムと債務保証制度を組み合わせて、小規模の生産者と小売店をマッチングさせ、大手スーパーのバイイングパワーに負けない仕入れ・配送システムを構築しました。

長津製作所は、フィルムカメラの衰退とともに需要のなくなったカメラボディの金型から、より高精度なカメラの鏡筒金型、スピードを要する携帯電話向け金型へと、新たな製品市場への参入に挑戦してきました。

マテリアルは、アルミを中心とした非鉄金属卸でしたが、顧客の要望に応えて加工を手掛けるようになり、生産設備を充実させて、より高精度の加工ができる製造業へと進化してきました。

ミラック光学は、顕微鏡の焦点合わせ装置で培った職人の匠の技を活かして、独自のアリ溝式位置決めステージという新商品をヒットさせ、倒産の危機から蘇った会社です。

いずれもコア技術に裏付けされた得意領域を持ち、時代のニーズをうまく読んで、自社技術を活かして大胆に主力商品を変えてきました。

――特別賞には、3社が選ばれたようですが

今年は特別賞の定義を再検討した結果、非常にユニークで、キラリと光る企業に贈賞することにしたということを実行委員長より聞いております。

アラヤは、輸出企業の製品取扱説明書に特化した多言語翻訳で、短期間に急成長をとげた会社です。

大麦工房ロアは、菓子原料は小麦という世間の常識を覆し、地元産大麦を原料とした商品群を展開する数少ない大麦専門食品メーカーです。

モーハウスは、授乳服というアイテムと様々なイベントを通じて子育て中を楽しむライフスタイルを提案、また、従業員には実際に授乳中の女性を多数活用するなど、ユニークなビジネスモデルを展開しています。

コア技術を磨き大胆な戦略

――受賞企業の特徴を総括すると、今後、中小企業がよって立つべき道筋が見えてきそうですね

今年の受賞企業を見渡してみますと、社会性の高い企業が多数見受けられます。大腸がん患者や知的障がい者に生きる喜びを提供しているアルケア、日本理化学工業の大賞企業2社を始め、淘汰の危機にさらされている小規模スーパーを束ね、格安品の共同仕入れを通じて生き残りの道を提供しているグルメン、特産物を活用した新商品の開発により地域振興に一役買っている大麦工房ロア、授乳期の女性に外出と働く機会を提供するモーハウスなどなど。折しも、社会的責任に関する国際規格ＩＳＯ26000が年末にも発効する予定で、今後は企業経営にも社会的責任の要素を取り込むことがますます重要となるだろうという時代の流れをあらわしていると思います。

もうひとつ見られた特徴は、自社がよって立つコア技術を持ち、時代の流れをうまく読みながら、その技術を活かして大胆に主力事業を変容していくこと。オプナス、長津製作所、ミラック光学などに顕著に見られます。

――今後もさらに回を重ねていくと思いますが、どのような展開や発展を期待されているのでしょうか

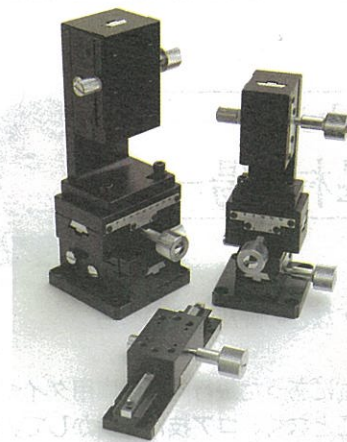
今年は全部で10社の受賞企業のうち、5社が23区外からの応募となりました。過去2番目の多数となる189社の応募をいただいていることと併せて、世間での認知度が上がってきていることを実感しております。一方で、他の表彰制度の受賞企業や、展示会などの出展企業を見てみますと、素晴らしい企業はたくさんあり、23区内でも発掘しきれておりません。推薦機関の協力を得るなど、発掘しきれていない宝の山から優れた企業を見出して、イノベーションのお手本として世間に公表できれば嬉しいことと考えております。

優秀賞

株式会社ミラック光学
代表取締役 村松 洋明氏

【事業の概要】
精密光学機器・位置決めステージなどの製造
【受賞理由】
○バブル後の倒産の危機に際し、工場・自宅を売却して郊外に移転。融資依存からの脱却を目指し、残された匠の技に賭けて新製品の開発に専念した結果、独自の極めて精巧な位置決めステージの商品化に成功。製造ラインには欠かせない大ヒット商品に育てたこと。
○ニッチ市場でオンリーワン企業を目指すとともに、特許権・意匠権・商標権を巧みに組み合わせて蜘蛛の巣のような網を張り巡らせる知財ミックス戦略を展開することで、付加価値の創造と差別化に成功し、取引先からも絶大な信頼を得ていること。

新たなものづくりに挑戦

【喜びの声】
苦しかった捲土重来の道を振り返ると感無量の思いである。この受賞を励みに、これからも「メード・イン・ジャパン」の誇りに賭けて、歩む足跡をしっかりと残していきたい。
知財網の構築と付加価値の高い新商品開発をより一層進化させ、さらなる高みを目指すと同時に、異分野への〝新たなものづくり〟に挑戦したいと考える。蓄積したノウハウとアイデアを活かして広く社会に貢献できる企業を目指し、社員一同使命感に燃えて仕事に打ち込みたい。

アリ溝式ステージの商品群

所在地 東京都八王子市松木34-24
資本金 1000万円
従業員数 8名(パート・アルバイト除く)
創業 昭和38年

特別賞

アラヤ株式会社
代表取締役 中嶌 重富氏

【事業の概要】
製品の取扱説明書やサービスマニュアルを主とする多言語翻訳及び編集・デザイン
【受賞理由】
○国内輸出メーカーの製品取扱説明書の翻訳に特化し、翻訳支援ソフト活用や多言語対応(約50言語)、翻訳の前後工程である編集やデザインの請負、ブランド戦略などといった効率化と差別化を徹底的に推進。56歳の起業から、わずか6年で業界大手にまで成長を果たしたこと。
○電子機器の高機能化やグローバル化が進展する中、デジタルカメラや携帯電話をはじめとした「電子機器内のメニュー表示を多言語化する事業」にいち早く着手。取扱説明書の翻訳で培ったノウハウやナレッジのシステム化により、競合の追随を許さないスピード化と平準化を実現したこと。

発展のための励みに

【喜びの声】
平成16年4月創業以来、取引先の望む企業になるよう努力してきた。その甲斐あって順調に成長を続け、現在翻訳・ローカライズ業界では大手と言われる存在になることができた。受賞を更なる発展のための大きな励みにしたい。日本企業が海外市場で攻勢をかけていく中、今まで以上に言語対応が必要となる。ローカライズ専門企業である弊社がやるべき仕事が増え、3年後には売上高20億円まで成長させたい。

デザインされたオフィス。ブランド戦略の一環として推進

所在地 東京都目黒区中目黒1-1-71
資本金 5000万円
従業員数 85名(パート・アルバイト除く)
創業 平成16年

株式会社大麦工房ロア
代表取締役 浅沼 誠司氏

【事業の概要】
「大麦」を使った菓子、食品の製造・販売
【受賞理由】
○ビールの原料や飼料用作物という大麦のイメージを払しょくし、地元産大麦を使った健康価値の高い菓子「ダクワーズ」の量産に成功。菓子以外にも、機能性食品や化粧品など幅広い分野で大麦を原料とした商品を開発し、大麦専門の食品メーカーとして成長したこと。
○原料として流通していない大麦を確保するため地元農家と新たな協力関係を構築し、農商工連携の成功事例としても評価。地元の新たな名産品を作り出すことで、地元農業の振興と地域の活性化にも貢献したこと。

大麦の可能性を追求

【喜びの声】
自分たちが創造してきた「大麦の新しいビジネスモデル」が公に認められたことに感謝する。これからも大麦の可能性を追求し、広めていきながらこの新しいビジネスモデルによって、地域が、日本が、農業が、地球環境が、社会全体が豊かになっていくことを目指したい。
大麦を中心に据えた豊かな持続可能な社会を目に見える形で実現していけるよう、発展途上国の荒野を大麦畑に開拓し、持続可能な社会をビジネスモデルとして作り上げていきたい。

地元の美しい大麦畑

所在地 栃木県足利市大月町665-7
資本金 4000万円
従業員数 60名(パート・アルバイト除く)
創業 昭和61年

有限会社モーハウス
代表取締役 光畑 由佳氏

【事業の概要】
機能性とデザインを追求した授乳服の製造及び小売
【受賞理由】
○実際に授乳を行う検証をとことん重ねて追求した高機能性に、ファッション性をプラスさせるという卓越した製品力に加え、様々なイベントを通じて「子育て中を楽しむ」ライフスタイルの提案の発信を続け、モノだけでなくコトを伝える活動を展開している点。
○助産師などの専門家及び公設試験場との連携を図り、授乳服製造で得たノウハウを土台とした新製品「ユニバーサルデザインブラジャー」を開発。外部資源と自社のコア技術を融合させ、積極的な製品開発を推進している点。

新商品の開発に全力

【喜びの声】
13年前には全くマーケットがなかった「授乳のための服」を作り続けた私たちがこのような賞をもらえるのは、母子をとりまく社会と、母親たち自身が変わったことの表れ。
専門家やユーザー、そして子連れで働くスタッフとともに授乳服を作り続けるうち、母にとっての優しさが女性すべてへの優しさであることを気づかされた。育児を前向きにとらえられる授乳服を作り続け、病後などの女性にも使えるユニバーサルデザインの商品にも取り組んでいきたい。

機能とデザインを併せもつ授乳服

所在地 茨城県つくば市山中380-36
資本金 300万円
従業員数 6名(パート・アルバイト除く)
創業 平成9年